

青年部

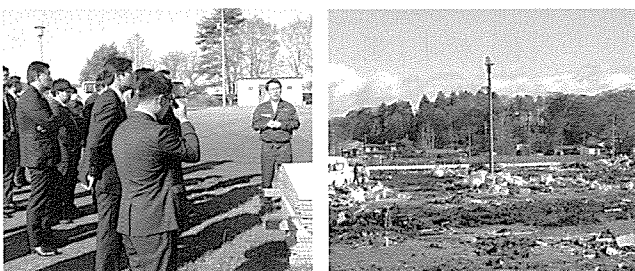
10月全体会議

青年部（近藤大樹会長）10月全体会議は11月1日（木）～2日（金）、視察研修委員会（天野晃明委員長）による北海道の野村興産（株）イトムカ鋳業所（北海道北見市留辺蘂町富士見217番地1）への施設見学を開催しました。

開催趣旨は法改正に伴い、昨年10月に水銀廃棄物の適正処理について「水銀使用製品産業廃棄物」、「水銀含有ばいじん等・水銀を含む特別管理産業廃棄物」に関する新たな措置が必要となりました。我々の業界にも深く関わる水銀使用製品の産業廃棄物に関して、東洋一の生産量を誇る水銀鋳山として名を馳せ、現在水銀含有廃棄物の無害化処理並びにリサイクル施設を持つ国内唯一の野村興産株式会社イトムカ鋳業所にて、水銀リサイクル処理の現状を学び、理解を深め社業に活かすことを目的とした全体会議を企画しました。

初日は中部国際空港に参加者23名が集合、新千歳空港へ向かい、到着後9月6日に北海道胆振地方中東部を震源として発生した地震「平成30年北海道胆振東部地震」を被災した厚真町の災害廃棄物現場を視察しました。現地では、（公社）北海道産業廃棄物協会青年部（株）苫小牧清掃社 常務取締役 山本康二氏に現場の案内をしていただき、最大震度7を観測した厚真町の被害の大きさと大規模災害による災害廃棄物の処理問題についてお話しを伺いました。その際当青年部からお見舞金をお渡しいたしました。

愛知県においても南海トラフ大地震への懸念もあることから、具体的な災害廃棄物の処理フローやインフラの復旧、被災による環境・衛生面等の質問等



が参加者からありました。

午後は野村興産（株）イトムカ鋳業所の視察を行いました。同鋳業所は含水銀廃棄物処理にとどまらず、多種多様な廃棄物を安全・適正に処理できる体制を構築していて、社団法人全国都市清掃会議・廃棄物処理技術センターからは、1986年「使用済み乾電池」、1999年には「使用済み蛍光灯」の『広域回収センター』の指定を受けています。保有している廃棄物処理プラントは世界でもトップクラスの高性能を誇り、日本をはじめ世界から運搬された廃棄物は、それぞれ最適な方法によって処理されます。使用済み乾電池、汚染土壌はロータリーキルン、汚泥類は多段式焙焼炉、医療廃棄物などは高温焼却炉、乾留ガス化焼却炉で処理し、蛍光灯はカレット化工場で高品位カレットを製造するなど、各種プラントを有しています。また敷地内には管理型の最終処分場を備えていて、中間処理から最終処分まで『完結型のリサイクル施設』であることがイトムカ鋳業所の最大の特徴と言えます。（出展：野村興産（株）HP）

参加者からは「同社を視察したことにより、取引先へ水銀廃棄物の処理に関して説得力のある説明ができる。」「日本に一つしかない工場の処理過程を見学し水銀の処理に対して意識が変わった。」など机上の知識では得られない、最先端の設備による現場での取組について深く理解をしました。

2日目は、摩周湖、博物館網走監獄にて社会学習を行い午後5時に女満別空港を立ち、午後7時に中部国際空港へ到着、全体会議を終えました。